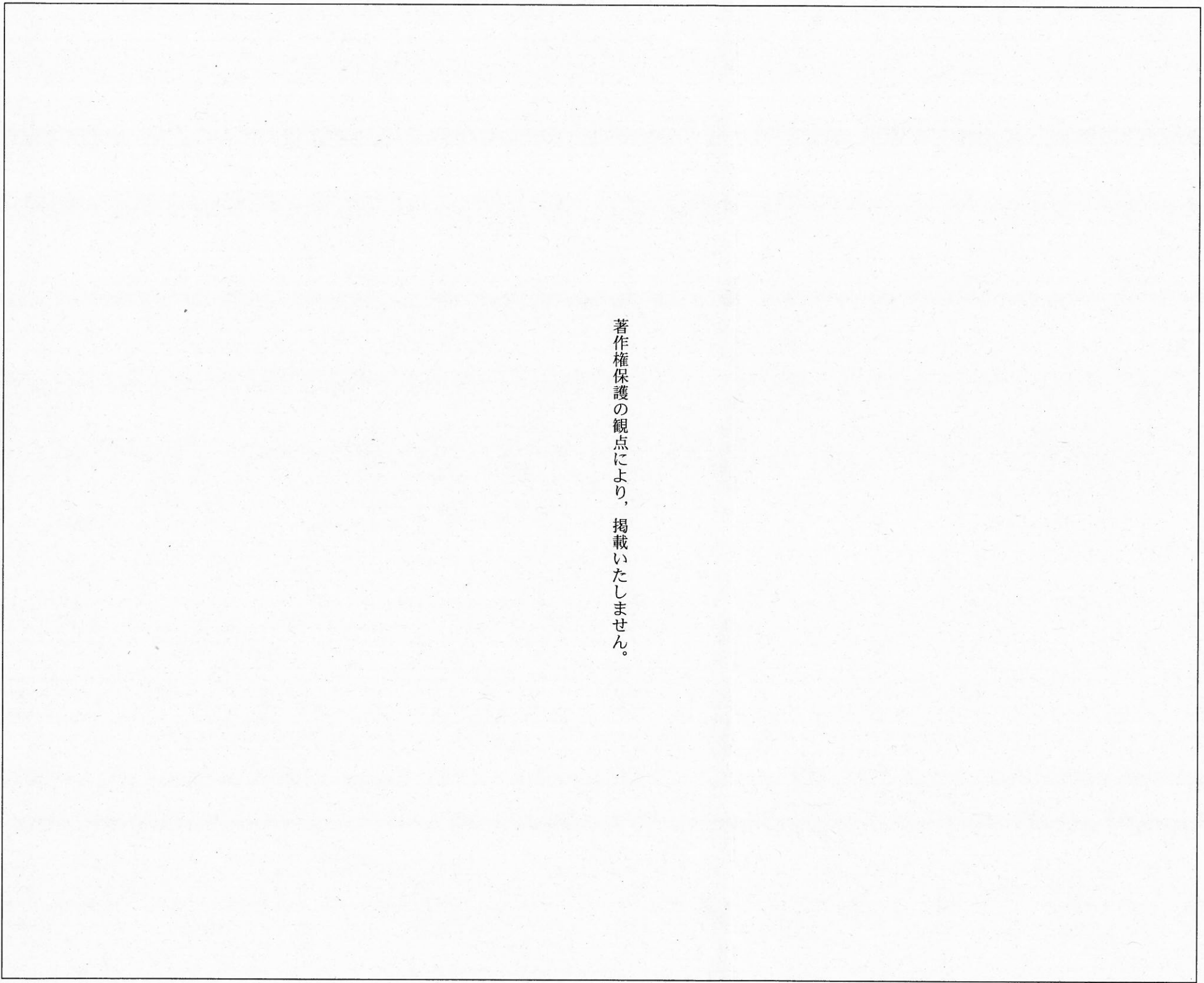


(五枚のうち一)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

□ 次の文章を読んで、問一～問五に答えなさい。



著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(外山 滋比古「知的創造のヒント」による。)

(注) 三上 Ⅱ 馬上・枕上・廁上。

ホワイト Ⅱ イギリスの工学者。

問一 ①～⑥の語について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みを書きなさい。

問二 1 |これは何を指していますか。五十字以内で書きなさい。

問三 A にあてはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 眼光紙背 イ 岡目八目 ウ 沈黙考 エ 一意専心

問四 2 考えようとすることも、ひとつでは多すぎる。ひとつだけではそれがすべてを独占してしまう。ために、不毛になるとありますが、筆者はどのようなことを述べようとしていますか。筆者のとらえ方を踏まえ、「創造」という語を用いて百字以内で書きなさい。

問五 次のア・イの漢字の太線部分は、筆順として、何画目に当たりますか。その数字をそれぞれ書きなさい。

ア 秘                      イ 独

受験番号

氏名

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

□ 次の文章を読んで、問一～問三に答えなさい。

これも昔、右の顔に大きな瘤ある翁ありけり。大柑子の程なり。人に交じるに及ばねば、薪をとりて世を過ぐる程に、山へ行きぬ。雨風はしたなくて帰るに及ばず、山の中に心にもあらずとまりぬ。また木こりもなかりけり。恐ろしさすべき方なし。木のうつほのありけるにはひ入りて、目も合はず、屈まりたる程に、遙かより人の音多くして、とどめき来る音す。いかにも山の中にただ一人ゐるに、人のけはひのしければ、少しいき出づる心地して見出しければ、大方やうやうさまさまなる者ども、赤き色には青き物を着、黒き色には赤き物をたふさき禪にかき、大方目一つある者あり、口なき者など、大方いかにもいふべきにあらぬ者ども百人ばかりひしめき集まりて、火を天の目のごとくにともして、我がゐるうつほ木の前にゐるまはりぬ。大方いとど物覚えず。

宗とあると見ゆる鬼横座にゐたり。うらうへに二ならびに居並みたる鬼、数を知らず。その姿おのおの言ひ尽しがたし。酒參らせ、遊ぶ有様、この世の人のする定なり。たびたび土器始まりて、宗との鬼殊の外に酔ひたる様なり。未より若き鬼一人立ちて、折敷をかざして、何といふにか、くどきくせせる事をいひて、横座の鬼の前に練り出でてくどくめり。横座の鬼盃を左の手に持ちて笑みこだれたるさま、ただこの世の人のごとし。舞うて入りぬ。次第に下より舞ふ。悪しく、よく舞ふもあり。あさましと見る程に、横座にゐる鬼のいふやう、「今宵の御遊びこそいつにもすぐれたれ。ただし、さも珍しからん奏でを見ばや」などいふに、この翁物の憑きたりけるにや、また然るべく神仏の思はせ給ひけるにや、「あはれ、走り出でて舞はばや」と思ふを、一度は思ひ返しつ。それに何となく鬼どもがうち揚げたる拍子のよげに聞こえければ、「さもあれ、ただ走り出でて舞ひてん、死なばさてありなん」と思ひとりて、木のうつほより烏帽子は鼻に垂れかけたる翁の、腰に斧といふ木伐る物さして、横座の鬼のゐる前に躍り出でたり。この鬼ども躍りあがりて、「こは何ぞ」と騒ぎ合へり。翁伸びあがり屈まりて、舞ふべき限り、すぢりもぢり、ゑい声を出して一庭を走りまはり舞ふ。横座の鬼より始めて、集まりゐる鬼どもあさま興ず。

横座の鬼の曰く、「多くの年比この遊びをしつれども、いまだかかる者にこそあはざりつれ。今よりこの翁、かやうの御遊びに必ず参れ」といふ。翁申すやう、「沙汰に及び候はず、参り候ふべし。この度にはかにて納めの手も忘れ候ひにたり。かやうに御覧にかなひ候はば、静かにつかうまつり候はん」といふ。横座の鬼、「いみじく申したり。必ず参るべきなり」といふ。奥の座の三番にゐる鬼、「この翁はかくは申し候へども、参らぬ事も候はんずらんと覚え候ふに、質をや取らるべく候ふらん」といふ。横座の鬼、「然るべし、然るべし」といひて、「何をか取るべき」と、おのおの言ひ沙汰するに、横座の鬼のいふやう、「かの翁が面にある瘤をや取るべき。瘤は福の物なれば、それをや惜しみ思ふらん」といふに、翁がいふやう、「ただ目鼻をば召すとも、この瘤は許し給ひ候はん。年比持ちて候ふ物を故なく召されん、すぢなき事に候ひなん」といへば、横座の鬼、「かう惜しみ申すものなり。ただそれを取るべし」といへば、鬼寄りて、「さは取るぞ」とてねぢて引くに、大方痛き事なし。さて、「必ずこの度の御遊びに参るべし」とて、暁に鳥など鳴きぬれば、鬼ども帰りぬ。翁顔を探るに、年比ありし瘤跡なく、かひのごひたるやうにつやつやなかりければ、木こらん事も忘れて家に帰りぬ。妻の姥、「こはいかなりつる事ぞ」と問へば、しかじかと語る。「あさましきことかな」といふ。

隣にある翁、左の顔に大きな瘤ありけるが、この翁、瘤の失せたるを見て、「こはいかにして瘤は失せ給ひたるぞ。いづこなる医師の取り申したるぞ。我に伝へ給へ。この瘤取らん」といひければ、「これは医師の取りたるにもあらず。しかじかの事ありて、鬼の取りたるなり」といひければ、「我その定にして取らん」とて、事の次第をこまかに問ひければ、教へつ。この翁いふままにして、その木のうつほに入りて待ちければ、まことに聞くやうにして、鬼ども出で来たり。ゐまはりて酒飲み遊びて、「いづら、翁は参りたるか」といひければ、この翁恐ろしと思ひながら揺るぎ出でたれば、鬼ども、「ここに翁参りて候ふ」と申せば、横座の鬼、「こち参れ、とく舞へ」といへば、さきの翁よりは天骨もなく、おろおろ奏でたりければ、横座の鬼、「この度はわろく舞うたり。かへすがへすわろし。その取りたりし質の瘤返し賜べ」といひければ、未つ方より鬼出で来て、「質の瘤返し賜ふぞ」とて、今片方の顔に投げつけたりければ、うらうへに瘤つきたる翁にこそなりたりけれ。物羨みはずまじき事なりとか。

(「宇治拾遺物語」による。)

問一 形式段落の第三段落から読み取れる翁の人物像について、根拠を示しながら書きなさい。

問二 この文章を教材に用いて授業を行いました。その際、「隣にある翁」はなぜ瘤を付けられたのか、という問いに対して、「踊りが下手であったから。」と答えた生徒がいます。「表現に即して、人物の思想や感情を読み取り、人間について考察している。」という評価規準に照らして、「努力を要する」状況と判断しました。この生徒に対して、どのような指導の手立てが必要ですか。簡潔に書きなさい。また、その際の発問例を書きなさい。

問三 文章を読み、生活や人生などについて考えさせることをねらいとして、この文章と他の古典などを読み比べ、話し合う学習活動を行うこととします。その際、ワークシートに、「読み比べた古典など」、「感じたこと考えたこと」の項目を設け、生徒に記入させます。生徒の記入例をそれぞれ示しなさい。

受験番号

氏名

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

## 三 次の文章を読んで、問一～問五に答えなさい。

さらぬだに、旅の空は物あはれなるに、夕波千鳥あはれに鳴き渡りて、岸の松風もの寂しき空に、箏の琴の音ほのかに聞こえけり。その声、盤渉調ばんじやうてうに調べて、けだかく澄みわたりにけり。「あなゆゆしの、人のしわざにはよも」などと思ひながら、その音に誘はれて、何となく立ち寄りて聞けば、釣殿の西面に、若き声二、三人がほどしけり。琴かき鳴らし、「松風、波の音もなつかしく、あはれ、都の人にかかる所を見せ a ばや」などと語らひつつ、「秋の夕べはあはれなるに」など言ひて、何となき古歌をながめけるを、侍従に聞きなして、あなあさましと、胸うち騒ぎ、心をとどめ b 聞きたまへば、いま少し忍びたる声して、

## 2 尋ぬべき人もなきさの住の江にたれ松風の絶えず吹くらん

とながめたまふを、聞きたまへば、姫君の御声と聞きなして、「あなゆゆし、仏の御しるしはあらたなる御ことにて」とうれしくて、簀子に立ち寄りてたたけば、侍従、「あやし、たれなるらん」とのぞけば、寄りかかりたる姿の、夜目にもしるくて、「あさましや、少将殿のおはしたるぞや。いかが」と申せば、姫君、「あはれにもおはしたるにこそ。さりながら、人聞きあしかりなん。我はなしと申し聞こえよ」とあれば、侍従出で会ひて、「こはいかに、あやしの所までおぼし立たせたまへるぞや。そのち、姫君を失ひまゐらせて、慰みがたさに、かくまよひはべるなり。見まゐらせさぶらへば、いよいよ昔恋しくこそ」とて c 泣きはべる。

「侍従の君のことをこそしのびしに、恨めしくものたまふものかな。御声までうけたまはりさぶらふに。おぼろけにてや、尋ね来たりつる。かく参りたるをば、あやしき武士なりとも、あはれと思はぬ人やさぶらはん。よしよし、さらば帰り d なん」とて、直衣の袖を顔に押しあてて、「憂きもつらきも、知らせたまはぬにこそ」とて嘆きはれば、3 侍従ことわりと思ひて、「さるにても、足やすめさせたまへ。都のこの恋しくはべるに」とて、尼君に、このよしを言ひあはすれば、「ありがたき御ことにこそ。たれたれも、あはれを知りたまへかし。まづこれへ、入らせたまふべきよし申せ」とて、侍従、「馴れ馴れしくなめげなれども、その昔のゆかりなれば、さのみこそ。4 疾く立ち入らせたまへ」と申しければ、少将入りたまひぬ。(「住吉物語」による。)

問一 a ばや、d なんをそれぞれ文法的に説明しなさい。問二 b 聞きたまへば、c 泣きはべるの主語はそれぞれだれですか。次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 侍従      イ 姫君      ウ 尼君      エ 少将

問三 1 あなゆゆしの、人のしわざにはよも、4 疾く立ち入らせたまへを、それぞれ口語訳しなさい。

問四 2 尋ぬべき人もなきさの住の江にたれ松風の絶えず吹くらんの歌には掛詞が二つ用いられています。それぞれ抜き出し、それぞれ掛詞がもつ意味を、それぞれ二つ書きなさい。

問五 3 侍従ことわりと思ひてとありますが、侍従はどのようなことに対して、「ことわり」と思ったのですか。八十字以内で書きなさい。

四 平成二十一年三月告示の高等学校学習指導要領 国語 現代文 A 2 内容を踏まえ、評価の観点及び評価規準を三つ定めることとします。それぞれ簡潔に書きなさい。

(五枚のうち五)

受験番号	
氏名	

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

五 次の文章を読んで、問一〜問六に答えなさい。(設問の関係で返り点・送り仮名を一部省略している。)

務光ナル者ハ、夏ノ時ノ人也。耳ハ長サ七寸。好<sup>レ</sup>ミ琴ヲ、服<sup>ニ</sup>ス蒲・韭ノ根<sup>一</sup>ヲ。殷ノ湯、  
 将<sup>レ</sup>ニ伐<sup>レ</sup>タント桀ヲ、因<sup>レ</sup>リテ光ニ而謀ル。光曰ク、「非<sup>ニ</sup>ザル吾ガ事<sup>一</sup>ニ也ト。」湯曰ク、  
 「孰<sup>カ</sup>可ナルト。」曰ク、「吾ハ不<sup>レ</sup>ル知ラ也ト。」湯曰ク、「伊尹ハ何如ト。」曰ク、「強<sup>カ</sup>ニシテ  
 忍<sup>レ</sup>ブ詬<sup>ヲ</sup>。吾不<sup>レ</sup>ト知<sup>ニ</sup>ラ其ノ他<sup>一</sup>ヲ。」湯既<sup>ニ</sup>克<sup>レ</sup>ツヤ桀ニ、以<sup>ニ</sup>テ天下<sup>一</sup>ヲ讓<sup>ニ</sup>ラントシテ於<sup>ニ</sup>光<sup>一</sup>ニ曰ク、  
 「智者ハ謀<sup>レ</sup>リ之ヲ、武者ハ遂<sup>レ</sup>ゲ之ヲ、仁者ハ居<sup>レ</sup>ルハ之ニ、古之道也。吾子胡ッ  
 不<sup>レ</sup>ル遂<sup>レ</sup>ゲ之ヲ。請<sup>フ</sup>相<sup>ニ</sup>タラント吾子<sup>一</sup>ニ。」光辞<sup>シテ</sup>曰ク、「廢<sup>スル</sup>ハ上<sup>ヲ</sup>非<sup>ザル</sup>義<sup>ニ</sup>也。  
 殺<sup>ス</sup>ハ人<sup>ヲ</sup>非<sup>ザル</sup>仁<sup>ニ</sup>也。人犯<sup>ニ</sup>シテ其ノ難<sup>一</sup>ヲ、我享<sup>ク</sup>ルハ其ノ利<sup>一</sup>ヲ、非<sup>ザル</sup>廉<sup>ニ</sup>也。吾  
 聞ク、「非<sup>ザレバ</sup>義<sup>ニ</sup>、不<sup>レ</sup>受<sup>ケ</sup>其ノ禄<sup>一</sup>ヲ、無道之世ニハ、不<sup>レ</sup>ト踐<sup>ニ</sup>其ノ位<sup>一</sup>ヲ。」況<sup>ンヤ</sup>  
 於<sup>テ</sup>ヤ尊<sup>ク</sup>スルニ我ヲ。我不<sup>レ</sup>ル忍<sup>ニ</sup>ビ久シク見<sup>ル</sup>ニ也ト。」遂<sup>ニ</sup>負<sup>ヒテ</sup>石ヲ自<sup>ラ</sup>沈<sup>ニ</sup>ム于蓼  
 水<sup>一</sup>ニ。已<sup>ニ</sup>シテ而自<sup>ラ</sup>匿<sup>ル</sup>。後四百余歳、至<sup>ニ</sup>リテ武丁ノ時<sup>一</sup>ニ、復<sup>タ</sup>見<sup>ル</sup>。武丁  
 欲<sup>ニ</sup>スルモ以<sup>テ</sup>為<sup>レ</sup>サント相ト、不<sup>レ</sup>從<sup>ハ</sup>。武丁以<sup>テ</sup>輿<sup>ヲ</sup>迎<sup>フ</sup>レバ而<sup>チ</sup>從<sup>フ</sup>。逼<sup>ル</sup>ニ不<sup>レ</sup>レバ以<sup>テ</sup>セ  
 礼<sup>ヲ</sup>、遂<sup>ニ</sup>投<sup>ジ</sup>浮梁山<sup>一</sup>ニ、後遊<sup>ニ</sup>尚父山<sup>一</sup>ニ。

務光 自<sup>ラ</sup>仁<sup>ニ</sup>シテ 服食<sup>シテ</sup>養<sup>レ</sup>フ **A**  
 冥<sup>ニ</sup>遊<sup>シ</sup>方外<sup>一</sup>ニ 独<sup>リ</sup>歩<sup>ニ</sup>ス常均<sup>一</sup>ニ  
 武丁 雖<sup>レ</sup>モ高<sup>シ</sup>ト 讓<sup>レ</sup>リテ位<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>臣<sup>タ</sup>ラ  
 負<sup>レ</sup>ヒテ石ヲ 自<sup>ラ</sup>沈<sup>ミ</sup> 虚<sup>シク</sup>無<sup>ク</sup>セリ其ノ身<sup>一</sup>ヲ

(「列仙伝」による。)

(注) 務光 || 夏の時代の伝説上の人物。 蒲・韭 || 菖蒲と韭。  
 桀 || 夏の王、桀王。 伊尹 || 殷の賢者。 湯 || 殷の初代の王、湯王。  
 武丁 || 殷の王、高宗。 浮梁山 || 山の名。 蓼水 || 川の名。  
 方外 || 俗世間を離れた世界。 常均 || 不変の道。 尚父山 || 山の名。

問一 a 辞<sup>シテ</sup>、 d 遊<sup>フ</sup>の本文中における意味を、それぞれ書きなさい。  
 問二 b 自<sup>ラ</sup>、 c 復<sup>タ</sup>見<sup>ル</sup>の本文中における読み方を、送り仮名も含めてそれぞれ現代仮名遣いで書きなさい。  
 問三 **A** にあてはまる最も適切な語を、次のア〜エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 生 イ 老 ウ 民 エ 真

問四 1 将<sup>レ</sup>ニ伐<sup>レ</sup>タント桀ヲ、因<sup>レ</sup>リテ光ニ而謀<sup>ル</sup>を、書き下し文にしなさい。

問五 2 孰<sup>カ</sup>可ナル、 3 請<sup>フ</sup>相<sup>ニ</sup>タラント吾子<sup>一</sup>ニを、それぞれ口語訳しなさい。

問六 4 負<sup>ヒテ</sup>石ヲ 自<sup>ラ</sup>沈<sup>ミ</sup> 虚<sup>シク</sup>無<sup>ク</sup>セリ其ノ身<sup>一</sup>ヲとありますが、務光は、なぜこのように行動したのですか。その理由を

六十字以内で書きなさい。

高等学校 国語科 解答用紙

(三枚のうち一)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄											
問一	①				②				③			
	④				⑤				⑥			
問二												
問三												
問四												
問五	了					画目イ					画目	

高等学校 国語科 解答用紙

(三枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄	
二	問一		
	問二	指導の手立て	
		発問例	
	問三	「読み比べた古典など」	
		「感じたこと考えたこと」	
	問一	a	d
問二	b	c	
三	問三	1	
		4	
問四	掛詞	意味	
	掛詞	意味	
問五			

(三枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄		
四	評価の観点	評価規準		
	評価の観点	評価規準		
	評価の観点	評価規準		
五	問一	a	d	
	問二	b	c	
	問三			
	問四			
	問五	2		
		3		
問六				